

令和7年度第1回すみだタウンミーティング 議事録要約

区長挨拶

区長:こんばんは。墨田区長の山本でございます。お忙しい中こうしてすみだタウンミーティングにご参加をいただきまして、厚く御礼を申し上げます。

このタウンミーティングは、区民の皆さん、そして区政に関心を頂き、お支えを頂いている皆さんと直接お話し、貴重なご意見を頂いて、それを区政に活かしていくため、ちょうど10年、これを続けてきております。

毎回「とてもいいお話が聞けたな、ぜひやってみたいな」と実感しております。今まで区政で気づけなかった、役所で気づけなかったことを気づかせ頂けた、そういうことを繰り返しながら、このタウンミーティングは毎回意義のあるいい形でやらせて頂いています。ぜひ今日も、皆さんと一緒にいい時間を過ごしたいです。

さらにお見受けをいたしますと、日頃からお世話になっている方、私もよく知っている方、そして今回ぜひここでご意見を言いたいと、皆さんが集まっております。11年目に入るわけですが、今日は強敵な皆さんがたくさんそろっており、とてもいい形で進んでいくと期待をしております。

そして本日のテーマは「すみだのシティプロモーションってなんだろう?」でございます。皆さん関心もあり、色々な角度から、ご自分の体験や想いから、忌憚のないご意見を頂きたいと思っております。

少しお話をさせていただきますと、墨田区は可能性があるまちで、積極的にまちをPRしていってほしいのにな、という想いを持っていた区民の、私は一人でありました。

皆さんも同じように「もっとできるぞ、もっといいものがあるぞ、魅力あるぞ、墨田の特性ってもっと皆でPRしようよ」と、同じ想いだと思っております。そういう中で私は区議会議員をやり、区長として11年目を迎えているということでございます。

ちょっと10年前の話ですが、就任時にバッチを作りました。葛飾北斎(画狂老人)の「人」と、当時江戸時代に流行っていたベロ藍という紺色、この濃淡をつけて「ひと、つながる。墨田区」というテーマに区政を進めていこうと、やらせていただきました。

墨田区のルーツを辿りながら、この墨田区に愛着を、誇りを持ってもらいたい、そんな想いを込めています。人が繋がっていくことによって、まちは作られていくということ、行政は頼りないですけど、地域の力はすごくて、墨田区を想ってくれる熱い想いの方が多いので、私はその人がつながって墨田区をつくっていく上で地域力日本一のまち、そういう墨田区をまちは目指せるんだということをおし上げてきました。

それがうまく絡み合って、皆さんが原動力となっていただいて、今ここに至っている、まだまだできるのかなと思っています。

そこに大事なのは発信力、情報発信の力も、もっともっと我々が学び、民間、区民、事業者の皆さんの声を聞いて、それを効果的に発信できるかというのが最大のテーマです。

各年代の一人一人の想をぜひ伝えていただいて、そのシティプロモーションがしっかり動いていくと、活性化になっていくというふうに思っております。今日の重要なテーマ、皆様方にお力添えをよろしくお願い申し上げます、ご挨拶といたします。今日はよろしくお願いいたします。

司会進行: 外山夏央氏(有限会社810ボール)

外山: 本日の進行と司会を務める。グループは5つに分かれており、各グループにすみだクリエイターズクラブのメンバーがファシリテーターとして参加している。外山自身はE班に所属する。

本日の流れは以下の通りである

1. すみだのシティプロモーションについて、区広報広聴担当の菜原課長と外山から説明を行う。
2. アイスブレイクとして自己紹介を行う。
3. グループワークを実施し、模造紙や付箋を使って議論をまとめる。
4. 各グループが前に出て発表を行う。
5. 山本区長から各グループの発表に対してコメントをいただく。
6. 全員で写真撮影を行う。
7. アンケートに協力いただき、終了となる。

すみだのシティプロモーションとは？(広報広聴担当課長)

シティプロモーションについて、墨田区の特徴を説明する。

一般的なシティプロモーションは、地域の認知度向上や魅力発信、定住促進、観光客誘致、ふるさと納税や特産品の販促を目的とする。

墨田区の現状:

1. 人口増加傾向
2. 観光客増加
3. ブランド価値向上によるふるさと納税や特産品の好調

墨田区の特徴:

- 多様な観光資源
- 多種多様な区民構成
- 歴史と新しさが融合した街並み
- 高い地域力

これらを踏まえ、墨田区のシティプロモーションは:

1. 特定のテーマに絞り込まない
2. 人と人とのつながりを重視する

墨田区シティプロモーション戦略プランの目的は地域力の向上であり、シビックプライドとスタッフプライドの醸成を戦略的に推進する。シビックプライドとは、区民がまちに対する愛着、誇り、推奨の気持ちを持ち、まちのために自ら関わろうとすることである。

墨田区のシティプロモーションは、区民向けのインナープロモーションに重点を置いている。区民を巻き込み、地域と共に墨田を盛り上げていく「墨田モデル」を推進している。

最後に、墨田のシティプロモーションがインナープロモーションであること、シビックプライドの醸成と人のつながりに重きを置いていることを強調し、グループワークでの活発な議論を期待している。

地域全体での協働による情報発信「もっと伝わる、もっと伝え合う」(外山夏央氏)

外山: 区民 28 万人が墨田の広報員になることを目指すテーマで話をする。すみだのシティプロモ

ーションの目的は地域力の向上だ。シビックプライドとスタッフプライドを高めることで、区民と職員の気持ちを上げていく。

広報広聴担当約 20 人と区職員 2,000 人が情報発信とつながりづくりに取り組んでいる。最終的には区民全員が広報員のような立場になり、日常的な活動がシティプロモーションになることを目指している。

「もっと伝わる、もっと伝え合う」をスローガンにしたい。様々な立場や年齢の人が墨田の魅力を伝え合う状態が理想だ。

広報の手法は大きく 4 つある：

1. 情報発信：基本的に伝えること
2. メディアリレーション：大きなメディアとの関係づくり
3. イベント企画：イベントを通じた情報発信
4. 広告配信：お金を払って多くの人に情報を届ける方法

これらの手法を活用して、墨田区の魅力を伝え合っていきたい。

情報発信の具体的な手法について説明する。

主な情報発信の方法：

1. インターネット：ホームページ、メール、ブログなど
2. SNS：手軽で楽しく情報発信できる
3. その他：チラシ、ポスター、お便り、回覧板、掲示板など
4. イベント：その場自体が発信の場
5. マスメディア：新聞、雑誌、テレビ、ラジオなど

墨田区の特徴として、チラシ、ポスター、回覧板、掲示板などの従来型の方法が活発に使われている。これらの方法も引き続き重要だ。

事例紹介：

1. SNS での情報拡散：区の投稿を区長がシェアし、さらに区民がシェアすることで閲覧数が急増した。
2. 施設の認知度向上：すみだ伝え合いラボで出会った施設運営をしている事業者と町会広報担当者が協力し、掲示板でチラシを貼ることで施設の認知度が上がった。
3. 地道な情報発信による仲間づくり：町会の広報担当者が様々な方法で楽しく情報発信を続けた結果、新たな協力者を得た。
4. メディアとの連携：ラボ参加者の中にいたメディア関係者と墨田区の魅力的な活動をしている人々が出会い、取材や掲載につながった。

これらの事例から、日常的な会話や活動も情報発信の一部であり、地道な努力が実を結ぶことがわかる。

メディアと活動者の関係は Win-Win となり、双方にとって有益だった。メディアは良い情報を得られ、活動者は認知度を上げられた。

区民 F さんのお祭り主催に対し、G さんが協力を申し出た事例を紹介する。二人の出会いにより、アイデアや資材の提供、協力関係が生まれた。さらに、それぞれの知人も巻き込んで盛り上がり広がった。その後、G さんのイベントに F さんが協力するなど、相互の連携が深まり、関係人口

が増加した。

コロナ禍での情報発信事例も紹介する。墨田区の SNS アカウントがリアルタイムで最新情報を発信し、それを見た I さんが、SNS を使わない J さんに口コミで情報を伝えた。これにより、口コミの重要性が再認識された。

まとめとして、区民 28 万人が広報員になるためには、失敗を恐れず小さな行動から始め、諦めずに続けることが大切だと思う。また、人とのつながりが重要で、特に対面でのコミュニケーションが伝え合いがとても大事である。

この後のグループワークでは、今の話を受けて、どうしていききたいかということをお皆さんに考えていただきたい。皆さんがすみだの広報員だと仮定したときに、どんな人とつながりたいか、何を伝えたいか、誰にどうやって伝えていくか、何か協力してもらいたいことはあるかなどを考え、グループで議論し、話し合っていたいただきたい。

グループワークテーマ：「もっと伝わる・もっと伝え合う」ためには、どうしたらよいか？

< 視点 1 > 【何を】今みんなに自分が伝えたいと思ったこと

< 視点 2 > 【どうやって】それをどうやって？誰に？伝える

< 視点 3 > 【もっと広げるには】協力してもらいたいこと

A 班：

推し活イベントであったり、区民向けのイベントがもっと必要ではないか。その上でもっと広げるためには協力していただきたい人がたくさんいるため、タウンミーティング等を通して、区のことを考える人の数を増やしていくべきだと思う。

また、このシティプロモーションを法人化・常設化して日々やっていけば、会議の中から徐々にアイデアが生まれて、行動が生まれるのではないかと。さらに、区内の施設等で、意見交換会をたくさん開催すれば、意見の交換からアイデアが生まれて、そこから実行が生まれていくと思う。

最後に、墨田区の小学校とか中学校、高校の生徒とか子どもたちがシティプロモーションに関わって、魅力を発信することでずっと墨田区にいたいと思えるようになると良い。

B 班：

伝えたいことについて、墨田区って本当に面白い、10 年後どうなっているか考えよう、行動しようという抽象的なところから話し合った。具体的などころでは、墨田区のイベント数が東京都で実は 2 位だったり、都内一でかい滑り台があったり、皆さんが気づいていないことや、素晴らしい施設があることを伝えたいという話になった。

それをどのように伝えていくかについて、一つは SNS やマスメディア、Web 媒体、掲示板などを活用することである。もう一つ、とても大事なことは、このような場でリアルに話し合うことである。人と話して、耳を傾けて、意思疎通をはかることがとても大事で、これが伝える仕組み、場づくりにもつながってくる。また、情報弱者の方に届けるうえでも、リアルな対話は必要である。

C 班:

墨田のつながるということは、結果。つながることを目的に行動することは、ハードル高い。墨田らしさとは何か、その中で「子ども」がキーワードになるのではないか。

28万人が広報員になるというテーマを考えたとき、ここに集まる人は濃厚な人たちである。多くの方は寝に帰るだけという中で、そのグラデーションをどういうふうに作っていくといいのだろうか。SNSも知っている人と集まっちゃうし、知らない人に届けるにはどうしていきべきなのか。

(発表者班内でバトンタッチ)

一番安い墨田のシティプロモーションはプライドを持って責任、覚悟を持つこと。いろいろな意見が出たが、結果的に全然バラバラであった。ただ、バラバライコールこの墨田らしさである。多様性、一人一人、各人が持っている結果のベクトルが違うので、結果が出ないのが当然ということが、私たちの結論になる。

最後に話し合いの中で印象に残ったことを伝える。墨田の愛にあふれている人たちというのは、ここに集まっている方含め、大体5,000人ぐらい。残りの27万5,000人に関して、墨田人脈ブスターで、私たちの少しの圧力(関り)があれば、あっという間に28万人に広がると思う。

D 班:

会場にいる半分ぐらいが自分の知り合い。これがある種、状況を表している。こういう場所に集まる人は大体同じになるという傾向はあると思う。

伝えたいと思ったことはいくつかある。お店や歴史スポット、墨田の魅力、物、人などが挙げられたが、話の3割は不満とか、要望だった。

墨田は課題解決力が弱いと思っている。ほかの区に比べると、皆お祭り好きで楽しいことは好きだけど、困っている人に目を向けることはしていない。その辺りにもっと目を向けたほうがよりいい区になると、勝手に思っている。

それをどう伝えるか。地域で考える会をつくる、仲間を集める、議員に伝えるとか、町会長を巻き込む、インタビューをして地域メディアに取り上げてもらう、自分たちの持っているリソースを活かしてやっていく。

協力してもらいたいところは、教育委員会等、具体的な名前は出ている。墨田の公式 LINE や、SNSを使わせてほしいと思っているが、いつも3か月先までいっぱいと言われる。

イベントには後援が付きやすいが、継続的な活動はどう後援をつけていいのかが、悩むところがあるので、協力してもらえると非常にありがたいと思っている。

企業や行政のハードウェアを使いやすく、イベントを、夜や土日にしてほしいというものもある。あとは町会。町会の回覧板や掲示板も、町会に直接行けば掲載してもらえるが、区から直接皆さんにお願いするみたいなことを、なぜできないのかわからない。そういうことをもっとできたほうがいいのではないかと思う。

E 班:

まず一つ目、何を伝えたいかについて、墨田は歴史が深い、そして町会、公園、職人文化、風景、

スカイツリーや水族館等がある。誰にどうやって伝えていきたいか。これはその地域、中の人たちに伝えていきたい。町会や学生、若い人、高齢者、子育て世代に伝えていきたい。

どうやって伝えていくか、グループワークの中で間に合わなかったのでかなりバラバラになっている。趣味や、同世代の子でつながり、長く住んでいる人も学生も、本当に小さい一歩で繋がればいい。

28万人いるから、一歩皆踏み出せば28万歩になる。すごい距離。私たちの結論としては、やっぱり地域力、地域というのも大事にしていきたい。

私ごとだが自分は、商店街の会長をしており、地域の人たちにつながりを広げていくという大変さを感じている。商店街として町会と、どのように繋がり、地域の方にどうやって知らせていくのが課題である。明日イベントをやるが、商店街には、9つの町会があり、町会の人たちと直接個別につながっていきなしゃいけない。

行政に町会の紹介を依頼したら、個人情報により教えられないと言われたので、昔ながらの方式で、町会の方、一人から町会長さんにまたご紹介いただくみたいな、リレー形式でつながった。

やってみて思ったが、そういうことは重要だと思っている。先ほど言ったとおり、小さい一歩がすごく重要で、その一歩というのが口コミにつながったりしていくんじゃないかな、そしてそれが地域プロモーションにつながっていくと思っている。

区長講評

区長: 本当に短い時間で、限られた時間で、私も回らせていただきましたけど、本当にそれぞれ真剣に、様々ないいお話を頂けていたということで、まず感謝を申し上げたいと思います。

A班について

SNS で主婦や、高齢者の皆さん、それから外国人に届けること、広げていくということが基本的にも大事という話だった。我々も分かっているながら、なかなかできていないという意味で、さらに協力者を増やしていったり、意見交換をして行動に移して、それを伝えるというようなお話をいただいた。これを常設化するという、具体的なお話もあったので、定例でやりながら進捗状況や皆の考え方がどのように進化していったり、変化していったり、いいほうへ向かっているのかを定点で評価しながら確認していくという作業、そんなご提案を頂けた。

B班について

それぞれに、いいところを挙げてもらい、諦めず、発信し続ける、いいものだと言い続ける、10年後の墨田区ってこんないい町なんだよということを伝えつつ、具体的にはこんないいところがあるよということもしっかり届けるという話は、非常に参考になった。

リアルが大事だというのはまさにそのとおりで、SNS は確かに波及力や、伝わる力が強いけれど、墨田の特徴としてはリアルでいこうよ、そのためには集まりやすい場所をつくらうよ、腹を割って対話しようよというのは、とても大事な視点を伝えていただけたと思う。それによって相互理解があるというようなお話であったので、非常にこれは、また大きなこと、それから具体的なこのリアル、場所、この設定で、対話をしていこうということに集約されるということで、参考にさせて頂きたいと思

う。

C班について

それぞれ愛に溢れている。そもそもシティプロモーションって何よというところから始まり、最後3分間でまとめると言ってもなかなか難しいのかなと思った。私に響いたのは、コアな愛のある人というのは28万人のうち、(どこにそんな根拠があるのか)5,000人ぐらいという話だけど、それがしっかりちゃんとやると28万人に一気に広がるよということは多分夢じゃなくて、本当に実現できる。それはいろんなやり方や手法、それから一人一人の想い、こういうものが皆で、ここで共有できると、もしかしたら本当に一夜にして広まるぐらいの勢いを感じた。

プライドや責任、覚悟のお話もあって、まさにそのとおりだなと思った。我々が強制するわけではなくて、自然に愛着や誇り、プライドを持ってもらうことができれば、理想形だなと思う。子育てしやすいまちの墨田のよさを、ちゃんと愛着を持っていただけている。愛着と責任と覚悟というのは、非常に大事なところでもあると思った。

もう一つ言っていたのは、インナー、我々内部はそうだが、区を見ていただいたときに、我々の熱い思いが伝わると、「ああ、墨田区っていいな」とか、憧れ「あの区って何か違うよね」って、下町だからとか、熱い人が多いからとか、シティプロモーションの語る場があるからとか、ほかの人に対しての憧れや共感、ここに結びついていくと関係人口、交流人口、墨田のよさというのが大きく広く伝わっていくところをご指摘いただけたのかなと思った。

D班について

最初は店や歴史スポットや人がいいって、何か墨田のいいところ発表してくれると思ったら、不満の話になりまして。

でも、感じることから、広げて伝えて、そして課題を解決しなければいけないテーマをしっかりと伝えていくということも、街が良くなることにつながる。墨田区がよくなっていくためには、非常に大事なご指摘だと思う。

いいところばかりを取ってもらって、そしてそれが広がっていくことが全てではないという意味では、非常に参考になるお話だったと思う。

それから伝えていく上で、民主主義の視点では、議会や教育委員会に伝えるというのはすごくありだと思う。

行政は行政で素直に聞き、改善しないといけない。時間がかかったり、できる理由を考えないで、できない理由から入ったりするので、私は「解消していこう」と職員とやっている。議会や議員さんにお話をする、それから教育委員会に直接意見を言うことは全くタブーではなく、機関を使って、皆さんの想いを解決していくことは、大事だと思っている。

今日は、呼びかけたら人が集まるような方がたくさんいる。前段にあった集まりやすい場所、対話の場所、居場所で活発な動きがそれぞれで起こり、この場で直接お話を頂き、SNSで発信をし、議員や教育委員会に伝えるということによって、街がいい方向へ進んでいくということは、参考になると思う。

土曜・日曜日のイベントや、区の後援等、いいものを自信を持ってやって頂きたい。様々なことを

含めて、我々の改善点をご指摘いただけたと思う。

E班について

墨田区の歴史の深さ、風景、水族館等、よいものがたくさんあるとお話を頂いた。これはありがたい、嬉しいことだと思う。人それぞれ発信をする際に、自分の観点で、良いと思ったもの、墨田区の中にたくさんあると思っている。それを発掘する力、自分で発信することにより、よさをブラッシュアップすることに、つながっていくと思った。

子育ての話もあった。しっかり発信していくということは、基本的なところでもあり、大事なこともある。子育て世代の方や、子どもたちも墨田にはたくさんいる。墨田区の子どもたちに、愛着と誇りを感じて、「地域を大事に」ということが、10年後、20年度の墨田区に生きていくと思っている。

具体的などころでは広げる大切さ、難しさという話があった。一つの行事やイベントをやるうとしたときに、町会の皆さんを巻き込むことが大事なのに、それがうまくいかないケースもある。商店街や、町会にもそれぞれに特徴があり、難しいところや協力的な町会がある。イベントを開催する側として壁はあるが、その壁を乗り越えていくということによって、絆と強さが深まっていく。

ゆくゆく大きな力になるという意味では、絆を深めていくことをぜひ諦めないでほしい。今の世の中一つのネックになっていることは我々も感じているが、それをできる範囲で、足を使って、知恵を使って広めて頂きたい。原始的なところでもあるが、その辺も課題として、協力できること、そしてご自分たちの力でも解決していただきながら、街をよくしていただけたらと思う。

それぞれ班の特徴もあり、地域的なところを掘り下げて発表していただき、改めて本当にありがとうございました。

区政を動かす上でも参考になったので、ぜひ月曜日に内部でミーティングをし、改善していきたいと思っている。どうもありがとうございました。

区長まとめ

外山:これにて今回のこのタウンミーティング終了となる。最後に山本区長からまとめのコメントを頂いてよいか。

区長:今日のテーマを聞いて区政の課題を、誰にどう伝えたいか、ルールとマナーを守り墨田区に住んでいい思い出をつくっていただくためにはどうすればいいか、再度考えることができた。

交通安全運動が9月から始まる。協議会の方や区民の方々から、交通ルールを皆で守れると、もっといいまちになるのではないかと声を聞いた。例えばヘルメットの着用率が悪かったり、自転車レーン、逆走、飲酒運転、これをどう伝えて、安心安全な自転車走行を伝えることができるのか。その方たちに言われたのは伝わってないということ。伝わってないのに、今度は来年の4月から交通ルールが厳しくなる。

行政用語は、わかりづらいが、そこの先に踏み込んだそういう伝え合い、この辺も我々の課題だと思っている。

きちんと伝わって届くと、墨田区らしいまちになっていくのかなと思う。暮らしている方の生活の環境をしっかり守りつつ、来ていただいた方にも伝わるまちというところを、このメンバーで、次の課

題として、また私にヒントを頂けたらありがたいと思った。

行政として考えていかなければならないが、地域に住んでいる皆さん、それから商店街や町会の皆さん、それから墨田愛のある皆様にヒントを、これからももらえたらと感じた。

何よりも、本当に皆さん墨田を好きでいただいているということが分かったのが、今日のタウンミーティングである。いつまでも好きでいていただきたい。そして今日の皆さんお一人お一人が、墨田の愛と熱さを発揮していただくこの場面を、我々行政としてつくっていきたい。耳の痛いことも含めて、しっかり伝えていただくことによって、我々が改善につなげる、または情報発信につなげる。それが届くことによって、墨田区28万8,000人、もっと魅力的ないい街になっていく。

23区にはいろんな特徴があります。足立、葛飾、江東、江戸川、いろんな特徴がありますが、やっぱり墨田らしさ。この墨田区の特徴を、魅力を活かせるように、引き続き皆様方に熱い想いを、墨田愛を持って、我々にアドバイスを頂けたらと思う。

本日は熱心に議論いただいたことに、重ねて感謝を申し上げ、私の講評とさせていただきます。本当に今日はありがとうございました。